

2010年01月01日～2015年11月19日の間に

腹部超音波検査を受けられた患者さんへのお知らせ

「機能性消化管障害における体外式腹部超音波検査による消化管機能評価の有用性に関する検討（後ろ向き研究）」の後ろ向き研究について

当教室では食道運動機能検査を当院で受けられた患者さんから得られた臨床データを用いて、後ろ向き観察研究を実施することとし、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会より承認を得ました。

本研究の目的は、いままで診断や治療が困難とされていた機能性消化管障害の病態や特徴を調べることで、患者さん一人ひとりにより適した治療を提供するために役立てることです。この研究の結果は、学会演題や学術論文として発表される予定です。

本研究は、患者さんのカルテから情報を収集する観察研究であり、患者さんの個人情報を抹消した状態で解析します。従って、患者さんの個人情報が外部に漏れる心配は全くありません。しかし、本研究の対象となる患者さんは、ご自身に関するデータの使用を拒否することができます。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究課題の関係者には武田薬品工業、アステラス製薬、第一三共、大塚製薬、エーザイ、アストラゼネカ、田辺三菱製薬、味の素、ゼリア新薬工業、ツムラ、Japan Gut Club、NPO 法人消化器疾患治療研究推進機構より奨学寄附金の受け入れ、また、塩谷教授の個人収入として第一三共およびアストラゼネカ、武田薬品工業より講師謝礼の受け入れ、畠教授の個人収入として東芝メディカルシステムズ株式会社から講師謝礼の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、武田薬品工業、アステラス製薬、第一三共、大塚製薬、エーザイ、アストラゼネカ、田辺三菱製薬、味の素、ゼリア新薬工業、ツムラ、Japan Gut Club、東芝メディカルシステムズ、武田薬品工業、NPO 法人消化器疾患治療研究推進機構は本研究課題には直接関係のない企業です。

何か不明なことや、研究への参加を希望されない方は、下記の問い合わせ先にご相談ください。

【問い合わせ先】

主任研究者 川崎医科大学附属病院 検査診断学（内視鏡・超音波）准教授 眞部 紀明
電子メール n_manabe@med.kawasaki-m.ac.jp
電話 086-462-1111（代表）